

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00474

研究課題名（和文）革命期 - 1920年代ロシアにおける人間と物との関係の再構築

研究課題名（英文）The Reconstruction of the Relationship between Human and Things in Russia from the October Revolution to the End of the 1920s.

研究代表者

佐藤 正則（SATO, Masanori）

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号：10346843

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：十月革命期 1920年代ロシア・ソ連のさまざまな領域（哲学、文学、芸術、技術、科学など）における、人間と物との関係を再構築しようとする理念、人間と非人間的なものを同一原理で統合する新たな世界観の諸相を解明し、その形成過程を具体的に跡づけた。その際、思想家・理論家たち（とりわけボリシェヴィキの哲学者ボグダーノフ、生産主義芸術の理論家アルヴァートフ、プロレタリア詩人・技術者ガステフら）の相互作用を重視した。さらに、この新たな世界観と21世紀哲学との共通性について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

十月革命 1920年代ロシア文化の研究は近年進展が著しいが、その多くは個別事例にとどまり、当時のロシアに生じた新たな人間観・世界観の全体像に迫っておらず、思想・文化史上の位置づけも充分ではない。本研究は、「人間と物との関係の再構築」という新たな視座を導入することによって、人間観と世界観を一体的に分析することができ、この時期のロシア文化を、20世紀初頭の全ヨーロッパ的な思想・文化史の文脈上で解釈しなおすこと可能にする。くわえて、この視座は、この時期のロシア文化・思想を、現代（21世紀）の最新哲学が直面する問題群と関連付けて論じ、それに今日的な視点から新たな思想的意義づけを与える可能性を開く。

研究成果の概要（英文）：This research revealed various aspects of the idea about the reconstruction of the relationship between human and non-human things, of a worldview that integrates human and things on the same principle, and the process of its formation in various domains (philosophy, literature, art, technology, science, etc.) in Russia from the October Revolution to the end of 1920s. We emphasized the interactions among thinkers/theorists, especially a Bolshevik philosopher A. Bogdanov, a proletarian poet and engineer A. Gastev and a theorist of production art B. Arvatov. We also explored common characteristics between this new worldview and the philosophy of the 21st century.

研究分野：1900 - 1930年代ロシア文化・思想史

キーワード：ロシア 哲学 思想 文化 文学 芸術 科学技術

1. 研究開始当初の背景

(1)1920年代ロシア文化における新しい人間観・世界観：研究の現状

ロシア革命は政治・経済体制のみならず、人間そのものを精神的・肉体的に改造する実験であった。1917年 - 1920年代には、思想、文学、芸術、科学技術などさまざまな領域で「新しい人間」創造の理念と実践が見られる。近年では、個々の思想家における「新しい人間」理念や個別の作家のテキストに現れる「新しい人間」理念について研究が増えている。

しかし、こうした研究の多くは、「新しい人間」像の記述にとどまり、それを包摂する世界観の解明には至っておらず、思想・文化史上の位置づけも充分ではない。また、個別の思想家や文学作品の分析の枠内にあり、当時のロシアに生じた新たな人間観・世界観の全体像に迫っていない。人間観・世界観の解明とその思想(史)的位置づけのためには、「新しい人間」観にくわえ、非人間的な物にたいする新たな見かたについて研究する必要がある。

(2)人間と物との関係の再構築：領域横断的研究と思想(史)的意義の再検討

実際、この時期のロシアでは、さまざまな分野(思想、文学、芸術、科学技術)で、非人間的な物にたいする新たな見かたと態度、さらに人間と物との関係を再構築しようとする理念と実践が見られる。この事実に着眼し、この事象を「新しい人間」理念と関連づけて領域横断的に研究することによって、人間観と世界観を一体的に分析することができ、さらに、個別の思想家や芸術理論家、文学者の枠を越えた領域横断的な研究が可能になると期待された。

また、こうした人間と物との関係の再構築の理念は、西欧近代を超越した新たな人間像・世界観構築の模索である。したがって、この視座の導入は、革命期 - 1920年代のロシア文化を、20世紀初頭の全ヨーロッパ的な思想・文化史の文脈で解釈しなおし、思想的意義づけを与えるものである。さらに、人間と物との関係性の再構築は、現代(21世紀)の最新の哲学潮流である「思弁的実在論」や「新唯物論」、また一連の「ポスト・ヒューマン」思想が直面している問題でもある。したがって、この視座は、革命期 - 1920年代ロシア文化・思想に、今日的視点から新たな思想的意義づけを与える可能性を開くものである。

具体的には、非人間的な物にたいするいかなる新しい見かた・態度が生じ、人間と物とのどのような新たな関係が探求されたのか、またさまざまな分野(思想、文学、芸術、科学技術など)において人間と物との関係の再構築の理念と実践にどのような共通性と差異があるのか、さらに人間と物との新たな関係性の理念が文化・思想史上にいかに位置付けられ、いかなる思想的意義を与えられるべきか、といった点が解明されなければならない、と考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、十月革命期 1920年代ロシア・ソ連において、さまざまな領域(思想、芸術、技術、科学など)に共通して見られる人間と物との関係の再構築の理念と実践の諸相を領域横断的に研究し、その具体的全体像を明らかにすることにより、この時期のロシアにおける人間観・世界観の多面性と共通性を重層的・立体的に描きだすこと、さらにその文化・思想史上の位置づけを検討するとともに、今日的視点から見た思想的意義も探ることにある。

3. 研究の方法

(1) 主要な研究対象

主要な研究対象は以下のとおりであった。

思想・哲学

ポリシェヴィキの理論家たちの哲学および人間観・世界観、とりわけボグダーノフの統一科学「テクトロギヤ」における人間と物との統一的な把握。またポリシェヴィキの理論家たちによる共産主義社会と人間についての構想。

文学・文学理論

プロレタリア文学の理論および作品、その影響を受けた初期のプラトーフやピリニャークの文学作品における物と人間の関係性。

芸術・芸術理論

プロレタリア文化運動(プロレトクリト)の理論と実践。またアヴァンギャルド芸術の一潮流である構成主義・生産主義の理論と実践、とくに生産主義の理論家アルヴァートフによる新しい「物質文化」の構想。

科学技術・技術思想

生産現場と日常生活にテイラー・システムを導入する「労働の科学的組織化」における人間と機械との融合の思想と実験、とりわけガステフによる人間と機械の統合理論である「社会工学」の構想。

(2) 研究にあたってとくに重要視した主な論点

人と物、生物と非生物との本質的差異を否定し、両者を統一的に把握する志向。

自然を克服し支配するものとしての人間観と、人間をもその一部として包摂する全体的システムとしての世界観との相克と相互関係。

人間と物との相互作用、とりわけ人間と機械との融合による人間の身体の拡張。人間身体の社会的共有とその技術的・生物学的改造も含む。

西欧近代の人間観・世界観に対する批判とその超克の志向。

(3) 研究の具体的な方法とプロセス

研究は以下の3つの領域に分けておこなわれた。

物にたいする新たな見かた

さまざまな分野(思想、文学、芸術、科学技術)において、西欧近代的な物質観がいかに批判され、物にたいするどのような新しい見かたが生じつつあったのか、その諸相を跡づける。とりわけ、人(有機体)と物(無機物)との本質的差異を否定し、両者を同一地平において同一原理でとらえる世界観の登場に着眼する。さらに、自然を克服し支配するものとしての人間観(人間中心主義的思考)と、人間をその一部として包摂する全体的システムとしての世界観(反人間中心主義的思考)との併存と両者の相互関係を検討した。

人間と物との新たな関係の探求

さまざまな分野の理論家や活動家たちが、物にたいする新たな見かたに立脚して、人間との物との間にどのような新たな相互作用を構築しようとしたのか、その諸相を跡づける。人間の能動的活動と物の運動との相互関係、さらに人間と機械との融合による人間の身体の拡張の問題を重視する。人間身体の社会的共有とその技術的・生物学的改造も考察にくわえた。

革命期 - 1920 年代における新しい人間観・世界観の総体的把握、その思想史的位置づけと、今日の視点から見た思想的意義

上記 1.2.の研究をふまえて、革命期 - 1920 年代における新しい人間観・世界観の全体像を体系化する。さらに、20 世紀初頭の全ヨーロッパ的思想・文化の文脈上での位置づけを試みた。くわえて、現代の最新哲学・思想との比較分析をおこない、革命期 1920 年代ロシアの新しい人間観・世界観の今日の視点から見た新たな思想的意義の可能性を考察した。

4 . 研究成果

ボリシェヴィキの理論的指導者ボグダーノフは、人間の労働(世界への働きかけ)を重視する人間中心主義的な世界観に立脚しながら、人間と非人間的な物を同一原理で包摂する非人間的な世界観へと到達したが、こうしたボグダーノフにおける人と物との関係の再構築の過程を、彼の前期の哲学「経験一元論」と後期の統一科学「テクトロギヤ」との関係、また「プロレタリア文化論」と「テクトロギヤ」との関係を子細に検証することによって、より具体的に、とりわけ彼のイデオロギー・芸術理論の発展の過程と関連させて、解明した。

これと関連して、ボグダーノフのプロレタリア芸術理論の変化を、芸術の新たな形式と物質的素材の問題に着眼して分析することによって、物にたいする新たな見かた、人と物との関係性を再構築する視座が、プロレタリア芸術理論に導入される過程を具体的に実証した。さらにその際、ボグダーノフとガスチェフや生産主義芸術理論家アルヴァートフとの影響関係や相互作用を分析することによって、三者の人間観・物質観の共通性と差異、相互作用の諸相を描きだした。

また、ボグダーノフの思想と「労働の科学的組織化」の主導者ガスチェフの「社会工学」とを比較検討することによって、両者が、「反射」の理論に依拠して、人間と非人間的な物(機械)を同一原理で把握する新たな人間観・世界観を構築しつつあったことを明らかにした。さらにこの新たな「反射」の理論が、生理学の「反射」概念に新たな解釈をもたらすものあると同時に、21 世紀の新たな哲学潮流「思弁的実在論」と共通性を持つことを指摘した。このことは、人と物との新たな関係性を構築する視座が 1920 - 30 年代のソ連心理学においても、重要な役割を果たしていることを示唆している。

このうち研究期間中に公表した研究成果は、以下のとおりである。

論文「ボグダーノフのイデオロギー論における「下部構造 上部構造」図式の克服」

ボグダーノフにおける人間と物とを一元的に包摂する視座の形成過程を解明することを目的として、ボグダーノフのイデオロギー論とその発展過程を再検討した。ボグダーノフが、マルクス主義の「下部構造 上部構造」図式を否定し、「技術」「経済」「イデオロギー」を「組織化」という普遍的な社会プロセスの「局面」「側面」としてとらえなおそうとしたことを明らかにした。

論文「ボグダーノフのプロレタリア芸術理論の変容」

ボグダーノフの「テクトロギヤ」(無機物、動植物、人間の精神活動、社会を同一原理で把握する統一科学)の構想とプロレタリア芸術理論との関係性、さらにボグダーノフの思想と 1920 年代の「生産主義」芸術理論との影響関係といった問題を解明することを視野に入れながら、ボグダーノフのプロレタリア芸術理論の変化を実証的に跡づけた。ボグダーノフの芸術理論に 1918 - 1920 年に大きな変化が見られ、この変化が、テクトロギヤの芸術理論への導入を意味するものであると同時に、それが(一般的にボグダーノフから影響を受けたとされる)ガスチェフやアルヴァートフからの批判に触発されたものである可能性を指摘した。

共著書『モダンの身体 マシン・アート・メディア』(第 1 章「1920 年代ソ連における人間

の機械化と反射の理論」を分担執筆)

ボグダーノフとガスチェフにおける、人間と機械との関係についての思想を比較検討した。ボグダーノフとガスチェフが、「新たな文化」「新しい人間」の内容をめぐる表層の議論では見解を異にして対立しながらも、人間と機械をとともに「反射」の原理に立脚するシステムとみなすことによって、人間と非人間的な物との対立を解消し、両者を同一原理で把握する新たな人間観・世界観を構築しつつあったことを明らかにした。さらにこの新たな「反射」の理論が、生理学の「反射」概念に新たな解釈をもたらすものあると同時に、21世紀の新たな哲学潮流「思弁的实在論」と共通性を持つことを指摘した。

なお、上記の成果にもとづき、ボグダーノフの思想の全体とその形成過程の総体を体系化する論考を執筆中である。このほか、1920年代「生産主義」芸術理論、プラトーフやピリニャークの文学作品における物と人間の関係性について、現在論考を準備しており、2023年度に公表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 佐藤正則	4. 巻 48
2. 論文標題 ボグダーノフのイデオロギー論における「下部構造 上部構造」図式の克服	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語文化論究	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4773110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 正則	4. 巻 50
2. 論文標題 ボグダーノフのプロレタリア芸術理論の変容	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語文化論究	6. 最初と最後の頁 33～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/6779662	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中村 嘉雄、小笠原 亜衣、塚田 幸光（編著）、佐藤正則、中村嘉雄、石原剛、藤野功一、古谷裕美、小笠原亜衣、塚田幸光、鈴木草能、フェアバンクス香織、本荘忠太、山本裕子、木村浩二、柳沢秀郎、福田安佐子（著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 モダンの身体 マシーン・アート・メディア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------